

急がれる林業の課題

適切な除間伐を

県内森林のすがた

熊本県の面積は、七十三万九千九百haで、この六二%に当たる四十六万一千三百haが森林、原野で占められています。この広大な森林、原野は、大部分が肥沃な土壌におおわれ、温暖な気温と豊かな降雨に恵まれ、林業を営むには極めてすぐれた自然条件を備えています。

このような天然の恩恵をうけて、本県の林業は、古くから県内のいたるところで活発に営まれ、木材を始め木炭、しいたけなどの林産物を供給し、水資源を確保し、災害から県民の生命や財産を護るはたらきをし、今日の繁栄に貢献してきました。

第二次世界大戦は、我が国に大きな惨禍を残しましたが、森林もまた戦争の被害を免れることはできませんでした。

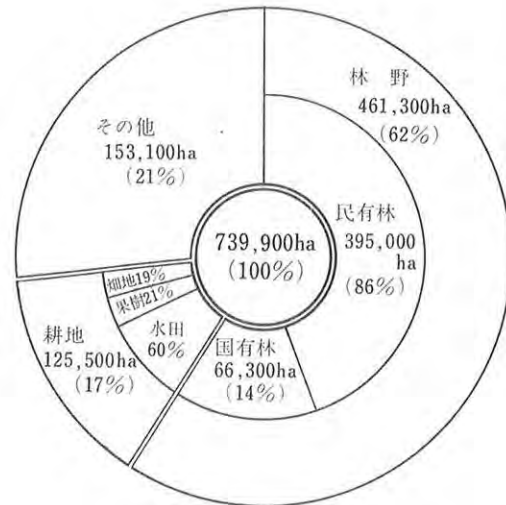
戦争遂行に必要な木材や木炭を供給するため、伐採

可能な森林は、ことごとく伐り尽され、戦後に残ったものは、到底人の入れそわない奥山や、僅かばかりの幼齢林で、地肌の露出し、緑のない荒涼たる光景は、当時を知る人々の記憶に新しいところです。

このような状態のなかから、県では、人心の安定、木材資源の確保、災害の防除を図るため、造林の推進を県政の重要な柱として、森林所有者の方々の理解を求め、補助、融資などの助成制度を設けて、積極的に取り組んできました。

その結果、造林は飛躍的に進み、昭和三十一年頃には、戦時中に伐採されたまま放置されていた裸の林地はなくなり、以後は、森林の質の向上のために、低質

表1 熊本県土地利用状況図



森林の内容

本県の林野面積のうち民有林(国が所有する森林を除いた森林、原野)は三十九万五千haです。

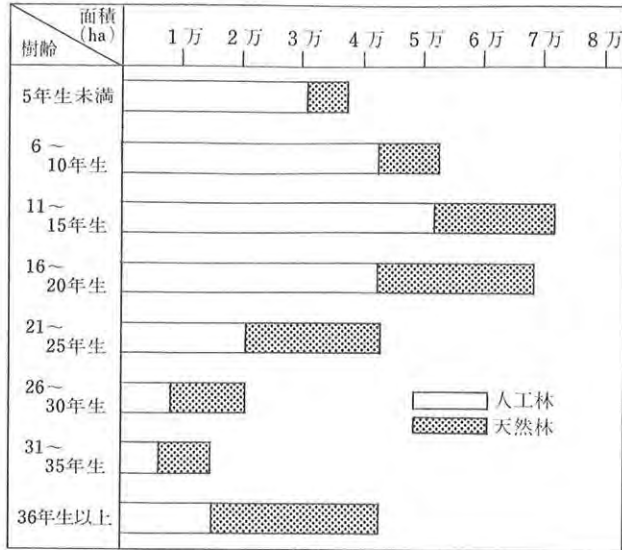
この森林の林齢の構成がどのようになっているかを表を参照ください。

十一年生から十五年生の森林が最も多く、次いで、十六年生から二十一年生の順となっております。

スギ、ヒノキなど針葉樹の人工林についても、六年生から十一年生に次いで十一年生から十五年生、十六年生から二十一年生の占める比率が非常に高くなっております。

先に記したように、戦後の昭和二十年代の後半か

表2 林齢構成表



ら、昭和四十年代の前半にかけて造林された森林が、本県の森林の主流を占めていることがおわかりと思います。

従って、これから先、内容の充実した立派な森林を造成するためには、これらの林齢の森林に適切な施業を行うことが最も大切なわけです。

森林施業のあらまし

苗畑で一年間育てられた苗木は、翌春、前もって準備された林地に、一定の

間隔で植栽されますが、生長の過程に従って、下刈り、つる切り、枝打ち、除伐間伐といった作業を確実、丁寧に行うことによって、価値の高い木伐として、建築その他幅広い用途に供されます。

その何れの施業も、立派な森林を造るためには、絶対欠かすことのできない要件です。

造林された方のなかには、一度植付けられた苗木は、そのまま放っておいても、立派に生育するものと思っておられる方があるかも知れませんが、このような作業をやらないと、枯れたり、林のなかが混んできて、大きくならなかったり、形や質が悪く、また病虫害や台風に弱い体質の森林となり、せつかくのそれまでの苦労が水の泡となってしまいます。

最近では、造林された方も森林施業のやり方をよく理解されて、下刈りやつる切り、枝打ちなどはよく実施されているようで大変喜ばしい傾向です。

しかし、除伐、間伐については、まだまだ実施されている方が少なく、昨年、県で間伐の実施状況を抽出調査しました結果でも、約二〇%程度に過ぎないことがわかりました。林業の将来を展望するとき、大変心配なことです。

間伐はなぜ必要か

樹木を生長させるためには、樹木の大き

きさに対応した根張り、枝張り、葉量、栄養を十分とれるだけの広さと空間が必要で

幼齢の人工林が、ある林齢に達しますと、隣接する林木の枝が相互に交錯しはじめ、木のかさですっかり閉鎖されておられます。

このような森林は、間伐するのが常識ですが、それが、まだ、造林者によく理解されていないことに問題があります。

農業の場合、大根や人参を栽培するのに、作物の生長の過程に従って間引きをし、適当な栽培間隔を保つようにすることは常識となっており、農家の方々はごく当たり前のこととして間引き作業をやっておられます。

林業の場合も、理論的には全く同じことです。ので、良い山、良い木を作るため間伐が常識として、造林者の方々に早く定着して欲しいものです。

それでは、ここで、もし全く間伐をしないで放置した場合と、適期に適切な間伐をした場合とでは、森林のすがたは将来どのように違ってくるか、主な相違点を考えてみましょう。

樹木の伸びは、両者ほとんど変わりませんが大きさは間伐した方が大きくなります。

間伐によって、立木本数が減ると、一本当たりの占有空間が広くなり、葉の量がそれだけ増え、太陽光線をうける葉の